

大磯の賢人 吉田茂

「吉田御殿」

平成21年3月22日、戦後政治史の舞台となった旧吉田茂邸が全焼しました。吉田茂は内閣総理大臣として戦後の日本外交を主導し、敗戦国日本の独立を果たした昭和の元勳、また「大磯の賢人」として国内外で高く評価されています。

相模湾に面し、富士山が一望できる旧吉田邸は、吉田茂の養父である吉田健三が、明治20年頃大磯の土地を購入し、別荘を建てたのが始まりとされています。

吉田は海外で訪問先の接待を受けた経験から、戦後、敷地内に外国貴賓が宿泊できるいわば迎賓館の新築を思い立ち、日本芸術院会員であった建築家の吉田五十八に設計を依頼し、京都の宮大工を呼んで豪華な総檜造りの数寄屋風和風建築



▲旧吉田茂邸内の寝室(銀の間)

を完成させました。「吉田御殿」と呼ばれ、応接間や客室など13部屋からなるこの邸宅には、吉田の政界引退後も政財界の要人たちが「大磯詣」と称して足繁く通ったことが知られています。

晩年寝室として使用していた部屋には、富士山を眺望できる大窓があり「西日が差す」という大工の忠告にも構わずこの窓を作らせたといえます。

この部屋をはじめ、書斎にあった官邸直通のホットラインであるダイヤルのない黒電話、昭和54年日米首脳会談が行われた客間、蒋介石から贈られた衝立など、旧吉田邸には政治史を彩る貴重な資料が数多く残されていました。しかしこれらすべてが先日の火災で灰燼に帰してしま

ったことはまことに残念です。昭和42年10月20日、穏やかな秋晴れの日、「富士を見たい」と言っ

てベッドから椅子に移った吉田の目の前には、息をのむほど美しい富士山の姿がありました。そして一言、「きれいだね、富士は」と眩

し、しばらく飽くことなく富士山を眺めていたといえます。その日、富士山をこよなく愛した大磯の宰相は89歳の生涯を閉じました。

◎問い合わせ 郷土資料館

臨時学芸員 曾根田 〆(61) 4700

ごみ処理広域化

シリーズ vol.3

ごみ処理施設の配置計画は？

★大磯町には厨芥類資源化施設を建設する計画です

「熱回収(焼却)施設」は、既に施設の更新計画がある平塚市に、「厨芥類(ちゅうかいりい)資源化施設」は大磯町に設置します。「剪定枝(せんていし)資源化施設」は平塚市、大磯町の両方に設置します。

「粗大ごみ破碎処理施設」、「リサイクルプラザ」、「最終処分場」については、平塚市の既存施設を利用し、「し尿処理施設」については、当面、大磯町の既存施設を利用します。熱回収施設は平成25年度、厨芥類資源化施設は平成28年度の稼働を目指しています。

なお、二宮町からごみ処理広域化に復帰したい旨の要望が提出されましたので、配置計画が変更される場合があります。

(注)

熱回収(焼却)施設：単にごみを焼却するだけでなく、ごみ焼却時に発生する熱を利用して発電などのエネルギー回収をする施設
厨芥類資源化施設：台所などから発生する生ごみ等を資源化する施設
剪定枝資源化施設：樹木の枝を切った後の枝木等を資源化する施設

広域処理施設の配置計画

施設の種類	対象ごみ	平塚市	大磯町
熱回収施設	可燃ごみ	◎	
厨芥類資源化施設	可燃ごみ		◎
粗大ごみ粉碎処理施設	不燃ごみ、粗大ごみ	○	
リサイクルプラザ	資源ごみ(缶、びん、ペットボトル、その他プラスチック製容器包装)	○	
剪定枝資源化施設	剪定枝	◎*	◎*
最終処分場	焼却残渣、不燃残渣等	○	
し尿処理施設	し尿、浄化槽汚泥		○ / 将来(◎)

◎：新設 ○：既設(改修含む) ※：破碎…平塚市 資源化…平塚市・大磯町

◎問い合わせ

環境経済課 〆内線359

